

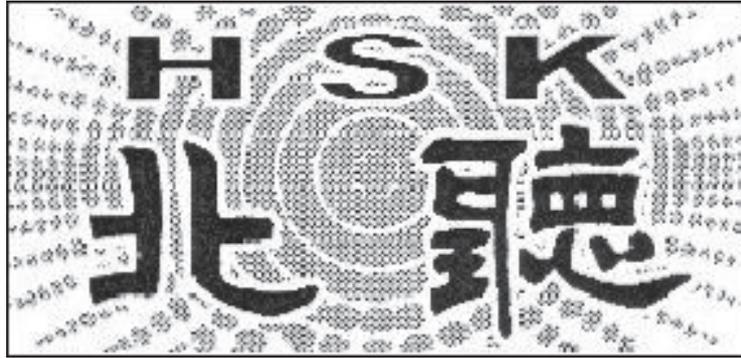
# 第257号

2026年3月10日  
HSK 通巻648号

発行人  
細川 久美子  
北海道障害者団体定期刊行物協会  
昭和48年1月13日 第三種郵便物承認



赤い羽根共同募金



2026年(令和8年) 3月10日  
(毎月10日発行)  
年間購読料 1,000円

編集人  
大内 祥一  
公益社団法人 北海道ろうあ連盟

札幌市中央区北2条西7丁目  
かでの2・7内(〒060-0002)  
FAX (011) 281-1289  
TEL (011) 221-2695  
URL: <https://hokurouren.jp/>  
E-mail: [hokkaido@hokurouren.jp](mailto:hokkaido@hokurouren.jp)

## 東京2025デフリンピックで活躍

# 北海道ゆかりの選手に相次ぎ栄誉賞



川真田結菜選手と鈴木直道北海道知事



左から木村亜美選手・鈴木直道北海道知事・川畑菜奈選手

昨年11月に東京都で開催された東京2025デフリンピックにおいて、世界の舞台で活躍した北海道ゆかりの選手たちに、北海道から相次いで栄誉賞が贈呈されました。水泳、サッカー、卓球の各競技でメダルを獲得した選手の功績は、道内のきこえないうきこえにくい人をはじめ、多くの人々に勇気と希望を届けるとともに、デフスポーツへの理解と関心を大きく広げています。

12日には、水泳女子400メートルメドレーリレーで銅メダルを獲得した川真田結菜さん(14歳、北広島市)に栄誉賞が贈られました。川真田さんは北広島市立西の里中学校3年生で、日本選手団の中で最年少選手として同大会に初出場しました。女子400メートルメドレーリレーでは第一泳者の背泳ぎを担当し、落ち着いた泳ぎでチームに良い流れをもたらし、銅メダル獲得に大きく貢献しました。初めての国際大会という大舞台において、日頃の厳しい練習の成果を十分に発揮した結果でした。

道庁で行われた贈呈式では、鈴木直道知事と面会し、「4年後の大会では個人種目でメダルを取りたい」と力強く抱負を語りました。知事はこれに対し、「勉強とスポーツを両立しながら結果を残すことは簡単ではありません。今回の成果は大変立派であり、これからも応援していきます」と激励しました。

続く18日には、同大会で銀メダルを獲得した2人の選手に対して、栄誉賞が贈呈されました。サッカー女子でボランチを務めた川畑菜奈さん(35歳、札幌市出身)と、卓球女子団体で初出場ながらメダルを獲得した木村亜美さん(28歳、小樽市出身)です。

贈呈式では、鈴木知事からそれぞれ表彰状が手渡されました。

川畑選手は、「2027年の冬季デフリンピックのフットサルを最後に競技生活にピリオドを打ち、その後は若手育成に力を注ぎたい」と今後の進路を語りました。また、木村選手は、「4年後の夏季大会に向けて技術や戦術をさらに磨き、共生社会の実現にも貢献していきたい」と決意を述べました。これに対し鈴木知事は、「選手の活躍を通じて、デフスポーツへの理解と関心が一層広がることを期待します」と述べました。

なお、バドミントンの沼倉選手および森本選手については、北海道と日程の調整が整い次第、栄誉賞の贈呈が行われる見込みです。

今回の一連の栄誉賞贈呈は、北海道ゆかりの選手たちの努力と成果を社会全体で共有し、次世代のろう・難聴の子どもたちに大きな夢を示すものです。北海道ろうあ連盟としても、今後のデフスポーツの発展と選手たちのさらなる活躍を心より応援していきます。

(スポーツ部長 土師 比佐夫)